

# 稚内の気象特性\*

成田 月 利\*\*

## 1. まえがき

稚内における天候について観測統計資料と天気図及び経験測によりその概要を調べて見ると大体次述の事が知られる(日常の観測経験と統計資料で調査したもので理論的な事柄は除いたものである)。

## 2. 天気について

1) 春から夏にかけての南乃至南西風は天気比較的良く気温も上昇する。しかし4月下旬から5月には日中

5) 発達した低気圧が本州東沖より北上、三陸沖付近に接近する時、又前線を伴う低気圧が日本海又は沿海州から東進する時前線の前面で降雨が始まる事が多く、前線が道北地方に東西に伸び停滞すると雨量多く大雨となる。

## 3. 風

1) 風向 4月から南乃至南西風が卓越し、9月頃迄続くが東風も多くなり、9月に入ると西の風が次第に多くなって来る。10月から3月迄は西乃至北西風が多い。

第1表 四季別風向頻度(%)

風向	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	C
春	5.2	3.2	4.2	3.2	9.5	5.6	2.8	2.9	8.9	16.8	10.4	2.8	5.2	4.8	4.2	6.3	4.1
夏	3.6	3.6	4.3	3.6	12.7	8.9	3.3	3.4	10.4	17.6	10.1	2.0	2.6	1.9	1.6	1.8	8.6
秋	3.8	3.5	2.8	2.2	6.5	4.2	2.7	3.3	8.5	11.2	10.2	3.9	12.8	9.1	6.7	5.2	3.4
冬	6.7	5.2	4.9	2.5	5.5	4.1	2.8	2.9	6.0	4.0	3.9	2.6	9.7	13.1	12.4	11.5	2.0

風が強くなる事が多い。すなわち、南高北低の気圧配置で等圧線が東西に走る時は気圧傾度から予想されるより以上の南西の強風となり、前線が通過しても曇つただけで降雨が見られない事もある。なおこれは稚内沿岸付近だけの事が多く殆んど地上付近だけで上層では弱い。

又、東偏風は全般に天気悪く気温も下降し、霧又は雨を伴う事がある。

2) 晩夏から秋には前線の通過で強雨に伴い時には雷雨が発生する。

3) 冬の東乃至北東風は降雪が多くなる事があり、時には低気圧通過後の北又は北西風と同様に風雪となり、海上は視界悪く時化となる事がある。

4) 夏季オホーツク海の高気圧が優勢となり、本州北部、日本海に張出すと朝晩は天気悪く霧の発生もあるが日中は晴れる事が多い、又オホーツク海高気圧の縁辺に入り、日本海北部が気圧の谷となる時は東又は南東風で天気悪く湿潤で気温も低い。

2) 風速 春から夏は南乃至南西風が強く 15m/s 内外、秋は10月頃もまだ南偏風が 15m/s 位となるが、次第に北風が強まり、同じく 15m/s 前後となる。冬は北偏風が最も強く 20m/s 以上に達する事があり、全年の最大風速は冬季に観測される。暴風日数(10m/s 以上)では春が多く特に5月が最も多く、多い年では月中20日位の事もある(春、冬)また 15m/s 以上のものでは冬が多く全体の45%位、夏は最も少く5%位である。なお稚内における最大風速の極は 27.0m/s 北風(1955, 2, 21)である。

第2表 暴風日数平均(10m/s以上)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日数	11.8	9.4	11.7	10.3	11.9	6.2	7.0	4.9	6.2	8.9	10.1	10.2

第3表 四季別暴風頻度(%)

10~15m/s				15m/s以上			
春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
32.6	18.7	23.0	25.7	28.0	5.1	22.9	44.0

\* Gesshō Narita: Meteorological Characteristics of Wakkanai.

\*\* 稚内地方気象台(北海道稚内市開運通り北5丁目)  
—1959年5月8日受理—

第2, 3表は暴風日数(10m/s以上)と、四季別の量別頻度である。

風速は日中強く夜間は弱いのは勿論であるが、冬季では日中よりも夜から早朝にかけて強くなる事が多く、他の季節と異なる。又北偏風は風の息が大きい、南偏風では顕著である。

4. 霧

霧は4月から始まり6~7月が最盛期で平均5~7日(水平視程1km以内)であり、これは道東地方より可成り少く、宗谷管内オホーツク海側付近より10~20%少く(日本海側北部よりも10%程度多い)継続時間も短いのは普通であるが、時には水平視程100~200位となる事もある(海上ではこれより濃厚で継続時間が永いのは当然な事である)。第4表は霧平均日数である。

第4表 霧日数

月	4	5	6	7	8	9
日数	1.4	3.0	5.4	7.4	2.2	0.3

1) 霧の発生は南偏風と東偏風が最も多く、北偏風でも発生するが僅少で、他の風向では殆んど発生を見ない。東偏風や北偏風では全般に風が弱い場合であるが、南偏風では風速は割合強い時が多く、時には10m/s位でも発生する事がある。風速は3m/s以下が全体の70%位で大半をしめている。また10m/s以上では2~3%でこれは南西風に限られる。又霧の発生時刻は夜半から早朝にかけて(特に早朝が多い)多く、午前の日中が最も少く10%位である。なお消散の時の風向は発生と同様南偏風と東偏風が大部分で、消散時刻は発生の最も少い6~12時迄の午前日中が多くなっている。第5.6.7表は霧発生及消散時刻と風速及び発生風向頻度を示す。

第5表 霧発生時刻(%) 霧消散時刻(%)

時間	0-6	6-12	12-18	18-24	時間	0-6	6-12	12-18	18-24
頻度	55	10	15	20	頻度	10	55	20	15

第6表 霧発生と風速(%) 霧消散と風速(%)

風速(m/s)	0-3	3-6	6-10	10以上	風速(m/s)	0-3	3-6	6-10	10以上
頻度	70	15-20	10-15	2-3	頻度	60	20	20	2-3

第7表 霧発生の風向頻度(%)

風向	S偏	E偏	N偏又ハ他風向	無風
頻度	50	25	15	10

又霧の継続時間は濃霧では短時間で1時間以内が全体の40%位であり8時間以上継続するものは僅少である。しかし水平視程1km以上の薄霧では継続時間が5~10時間位のもの1番多く、1日~2日に亘る事も10%位ある。第8表は視程1km以下の継続時間の頻度である。

第8表 霧継続時間(視程1km以内)

時間	1以内	1~3	3~8	8以上
頻度(%)	40	35	25	1前後

2) 霧発生時の気圧配置

(イ) 宗谷沿岸がオホーツク海高気圧の圏内に入る時  
(ロ) 低気圧又は前線が宗谷海峡又は本道北部にある時が最も多いが、その他高気圧が本道南東沖又は三陸沖にあって低気圧が樺太を東進する時や、強い南西風によって発生する事がある。なおこれは日中も継続する事が多い(薄霧も入る)。

(ハ) オホーツク海の高気圧が拡く日本海、本道を掩う時は朝晩霧が発生するが日中は晴れる。しかしこの高気圧の縁辺では日中も発生し湿潤な天気が続く。

以上の事より前線、低気圧、オホーツク海高気圧の圏内によって発生する為雨を伴う事が大半である。

5. 雨量及降雪

降水量は9月が最も多く、2月が少い、又大雨は7~9月で日量100~140mmを観測する事があり、1時間雨量も50mmを越える事もあるが稀である。

A 大雨時に於ける気圧配置及び風について

1) 東又は北東に伸びる前線を伴った低気圧が日本海より東進し本道を通過する時で低気圧前面の前線の通過で降雨が始まり、停滞気味となると雨量多く長時間に亘る。なおこの時の風向は東乃至北東風である。

2) 東乃至南東に伸びる前線を伴った低気圧が沿海州又はアムール川下流より間宮海峡南部に出て東進する時

3) 南又は南西に伸びる前線を伴う低気圧がアムール川流域より樺太中部以北を通過しオホーツク海に出る時。

2), 3) とも前線の前面によって降雨が始まり通過直前後が雨勢が強くなり、風向が西に変われば次第に止む。しかし3)の時は2次的な前線で再び強雨となる事がある。又1)の時は雨の降り方に変化なく時間的にも割合永いのが普通であるが、2), 3)の時は強弱の変化大きく時間的にも短かい。しかし1時間、及び10分間の最大雨量はこの型の時多く観測され時には雷雨を伴う事がある。

第9表 月別降水量 (mm)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
量	82.8	59.5	65.2	64.7	74.4	64.0	108.7	113.3	165.8	129.1	124.0	114.4

第10表 日量, 1時間量, 10分間量, 最大雨量の極 (mm)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日量最大	24.2	36.0	101.0	49.3	32.4	39.5	128.2	138.1	139.9	84.6	72.6	52.2
1時間最大	...	...	...	...	14.2	9.8	24.0	37.0	64.0	...	...	...
10分間最大	...	...	...	...	3.5	4.3	10.0	13.6	13.5	...	...	...

風向は南又は南西風である。大雨時の風速は全般に弱い時が多く特に南西乃至南風の強い時は大雨とはならない。また大雨前には上層には1~2日前より暖気の流入が顕著で弱い寒気の突入があっても大雨現象が見られ、又上層 Trough が同時に通過すると雨勢も強く量も多くなる。

なお雨量としては前述の1)の型が多くなるのが普通である。第9表は月別降水量。第10表は日量, 1時間, 10分間の最大雨量の極である。

B 大雪の気圧配置及び風

1) 大雪の気圧配置は夏季の大雨と類似した気圧配置の時が多く、沿海洲付近から日本海北部に進出した低気圧が本道南部を通過し、高気圧が樺太及びオホーツク海西部を掩い、本道付近は気圧傾度が急で東の風雪が強く通過後北東乃至北の風で降雪は弱まる。この時は日量降雪が50cm以上となる事がある。しかし平年の日量降雪の最大は20cm前後である。

2) 季節風に伴う降雪の最大は20~25cm程度が最高であるが時間的に降雪が永くなる事があり、時には風雪が2~3日に及ぶ事もある。

6. 気温

気温の日変化は次の通りである。

1) 夏(8月)では日の出後上昇し12~14時頃が最も高くなりその後次第に下降し日の出直前の4~5時が低くなる。

2) 冬(1月)の変化は夏と同様日の出後上昇して12~13時頃が最も高くなり、その後の下降も夏と同様であるが4~6時頃までが最も低くなる。

3) 最高気温(日最高)は四季を通じて13~14時頃出現するが、4, 10月の冬季, 夏期の変わり目には12~13時に出現する(日変化の高温時に観測される)。

4) 最低気温(日最低)は各月共23~24時の夜半に最

も多く、次が夏では4~5時, 春秋が5~6時, 冬が6~7時頃となつている(最も多い時間が日変化の低温時と異り夜間に多いのは特筆される)。また極に近い最高最低を観測する時は全般に風が弱いのが普通である。

5) 最高気温の30°C以上が観測されるのは極く稀である(最高気温極31.3°C(1946.8.22) 最底の極は-19.4°C(1944.1.30)である)。又平均気温25°C以上を観測されない年もある。

6) 気温の類別回数は次の通り。

平均気温 25°C 以上—初終間日数4~5日位(8月)  
最高気温 25°C 以上—同上 45日位(7月下旬—9月上旬)

平均気温 0°C 以下—同上 80日位(11月半ば—4月上旬)

最高気温 0°C 以下—同上 115日位(11月上旬—4月末日)

7) 最高最低気温の平均較差は春から夏にかけての5~6月及び秋の9~10月が最も大きく6~6.5°C位で、冬が最も少いのは勿論である。

7. 日照と雲量

日照率は9月が最も多く50%位(可照時数に対して)。次いで4月と10月が45%位, 12月, 1月が最も少く15%位である, 又霧の多い6~7月が35%位(6~7月は湿度も大きく平均85%である)である。

又雲量では夏季は朝が多く(特に6~7日は早朝が多い)冬は日中が多い。又雲量の減少するのは夏冬とも夜半0~1時頃である。しかし4月には夜間に最も多く夜半過ぎから早朝にかけ減少するのが他の月とは異なる。

8. 雷雨

雷雨は6月より10月頃までで9月が最も多いのは当然であるが、他地方から見れば少く、平均月中2日位であ

る。しかし多い年では9月に7日位観測される事があるが稀である。気圧配置は低気圧が南又は南西に伸びる前線を伴って樺太付近を東進(雨量の項の3)の型)し前線の通過前後に観測され、この時強雨が有り雨勢の強弱の変化が大きい。時刻は夜間又は夕刻に多く観測される。

### 9. 曇現象と降雨

曇の発現と降雨について調べて見ると大体80%が関係あるものとして見る事が出来る。又春季及び月曇の場合には90%位となり、夏は無降雨の時が30%位となる。

無降雨の時の気圧の配置は南高型で曇現象後も南偏風が強い時が大部分である。又、曇階級の大きいものほど降雨が見られるのは勿論である。また降雨時間との関係は10~24時間位の降雨が一番多くなっている。第11表はそれである。

第11表 曇と降雨の時間的關係

曇一降雨時間	5時間以内	5~10	10~24	24~50
頻度	23	15	38	26

### 10. 季節について

1) 雪 雪の初日は平年10月下旬の前半で、最早が10月上旬の後半であり、最晩は11月上旬の後半である。又終日は5月上旬の前半、最早が4月の半ば、最晩が5月の20日以降であり、宗谷管内殆んど早晩の差はない。

2) 根雪 根雪の初日は11月の下旬半ばで最早が11月上旬半ば、最晩が12月20日頃である。又終日は4月10日頃で最早が4月初め(34年の終日は3月28日)、最晩が4月中旬後半となっている。終日は宗谷管内では稚内が最も早く内陸部では平均4月20日以降の所もある。

なお融雪は3月中旬以降の気温が最も影響され、特に3月下旬から4月にかけての高温は融雪を促進させ、日照には影響が少い。

3) 積雪 積雪の初日は10月末日、最早は10月中旬の後半、最晩は11月10日頃である。又終日は4月下旬の初め、最早は4月上旬後半、最晩が5月10日頃である。また初終間の日数は永い年では180日以上、短い年でも160日位である。これは管内各地一定ではない。

4) 結氷 初日は10月下旬中頃で、最早が10月10日頃、最晩は11月上旬半ばである。終日は4月末、最早は4月10日頃、最晩は5月下旬の前半である。なお管内ではこれより初日は早く、終日もおくれ、内陸部では終日

の平均は5月上旬の所が多くなる。

### 5) 結霜

(イ) 稚内沿岸の初霜は10月中旬の後半、最早が10月上旬中、最晩は11月20日頃、終霜は5月上旬中、最早は4月上旬後半、最晩は5月末日であるが宗谷管内では初霜平均が最も早い所では9月下旬後半、最早が9月か10月頃、終霜は平均6月10日頃、最晩は7月20日頃の事もある。この管内最早、最晩地の結霜と稚内における最低気温との関係を見ると第12表の通りである。

第12表 最早、晩地の結霜と稚内最低気温関係

最低気温 結霜 初終別	稚内の最低気温		風向
	最多結霜	結霜可能の範囲	
初霜期	6~7°C	0~13°C	SWE
終霜期	2~3°C	-1~10°C	SWE

(ロ) 気圧配置は南高北低(本州中部又は日本海に高気圧の中心があり広く本邦を掩つており、華北、アムール川流域が低圧帯となつている時)と東高西低(高気圧の中心が本州東又はオホーツク海にあって西乃至南西に張出しており、日本海又は満州に低気圧がある時)で前者は南西風、后者は東偏風である(北西風の時も見られるが僅少)が何れも風は弱く3m/s以下の風速が殆んどで6m/s以上では極く少い。また前夜は天気の良いのは勿論であるが前日降雨のある時が可成多い(沿岸では東偏風では結霜は殆んどない)。

6) 流水 稚内に於ける流水観測の初日は2月上旬半ば、最早が1月中旬前半、終日は3月10日頃、最晩が5月始めで、初終間日数の最も永いものは70余日である。しかし稚内では流水が観測されない年もある。又接岸する時も甚々あるが殆んどが砕氷(Br)で、東→北の風で観測されその後も引き続き北の風が吹走すると接岸し、南乃至南西風で退去する。なお宗谷岬、及びオホーツク海側沿岸では毎年観測され、接岸も多く長く滞留する事は勿論である。

7) 沿岸結氷 初日は1月下旬半ば、最早が12月末、終日は3月上旬前半である又初終間日数の最も永いものは75日位である。なお沿岸結氷も流水と同様観測されない年もある。

8) 桜 稚内付近の山桜の開花は5月中旬後半で、満開は5月下旬前半である。開花から満開までは大体5~7日位で、開花の最早が5月上旬、満開の最早は5月中旬半ばであるが、積算温度の影響が大きい。

第13表 天気継続日数(回数) (昭和13~33年)

月	日数 種	2日 以上	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
1	晴	1.0	0.5	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	1.0	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	晴	1.6	0.7	0.5	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	1.2	0.4	—	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	晴	3.0	2.3	1.5	0.8	0.5	0.4	—	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.1	2.8	2.0	1.7	1.5	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	2.9	1.6	1.2	0.5	0.4	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	晴	4.4	3.0	2.1	1.4	0.8	0.4	0.3	0.2	—	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.7	2.6	1.5	1.2	0.9	0.6	0.5	0.4	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.6	2.5	2.1	1.5	0.9	0.7	0.5	0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	晴	4.4	2.3	1.4	1.1	0.9	0.6	0.5	0.4	—	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.3	2.4	1.6	1.0	0.7	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.8	2.7	1.7	1.0	0.7	0.4	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	晴	3.6	1.8	1.2	0.8	0.5	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.0	2.2	1.6	1.3	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.7	2.4	1.7	1.2	0.9	0.6	0.5	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	晴	2.7	1.6	1.1	0.6	0.5	0.3	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.0	2.1	1.7	1.5	1.3	0.9	0.7	0.5	0.4	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.1	2.4	1.8	1.4	1.1	0.8	0.7	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	晴	3.8	2.7	1.8	0.8	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.3	2.0	1.2	0.8	0.4	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	4.1	2.9	1.9	1.3	0.9	0.7	0.5	0.4	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	晴	4.1	2.6	1.6	1.2	1.0	0.7	0.5	0.4	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.7	2.7	1.9	1.5	1.1	0.9	0.8	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.4	2.1	1.3	1.2	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	晴	4.2	2.4	1.8	1.4	1.0	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.4	2.6	2.0	1.7	1.4	1.2	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	3.1	1.9	1.0	0.6	0.3	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	晴	2.4	1.2	0.6	0.4	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	3.1	2.7	2.1	2.0	1.8	1.6	1.5	1.4	1.3	1.2	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	2.1	0.9	0.6	0.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	晴	0.9	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	降雨(雪)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無降水	1.0	0.4	0.2	0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

註 晴日数は日平均雲量 0 ~ 7.9 迄とし降雨雪の有無に関係せず  
 降雨雪日数は日降水量 0.1mm 以上のものとす。なお冬期間 (12 ~ 2月) は連日降雪の為除く  
 無降水日数は日降水量 0.0mm も含む  
 継続日数の翌月に亘るものは継続日数の永い月に入るものとす。この為日数と一致せず

## 11. 天気継続日数

稚内における月別の天気継続日数を、晴(全雲量0~7.9) 降雨雪(日降水量0.1mm以上)及び無降水(日降水量0.0mmを含む)について調べて見ると第12表の通りで、晴では継続日数2日以上のものでは4、5月が最も多く平均月4.4回、次が10月の4.2回であり、最も少いのは12月の0.9で冬季の少いのは当然である。又春、秋季には10日~2週間も継続する年もある。晴全日数でも春、秋が多く、7月が冬季に次いで少く(11.7日)、6、8月が同数(14.5日)である。降雨雪継続日数(冬季は除く)は3、4月及び9、10月では1週間位のものが月に1回あり11月に入ると10日~2週間位のものも毎年観測される。また各種継続日数より見て月別の天候は概ね次のようである。3月が全般に雪と曇が多く、4、5月が晴と曇、6月が曇(多少雨あり)、7月が曇と雨、8月が曇、9、10月が晴と雨の極端な天気、11月~2月が大体雪で、冬季を除いては7月が最も悪く曇雨天の愚図ついた天候(霧期)である。(降雨継続日数は他の月より永くないが)最も良いのは5月、降雨の継続日数の短いのは8月で4~5日位のものが月1回位であ

る。

## 後記

今后各種個々のものについて詳しい調査が必要と思われるが、今回は、日常観測及び予報作業に参考とする為、又民生協力の資料として簡単に稚内の季節的な気象の概要を記して見た。

## 参考文献

1. International Cloud Atlas. 1956, W. M. O.
2. International Atlas of Clouds and of States of the Sky. 1932, I.M.O.
3. 藤原映平「雲」
4. W.E. Howell [The Classification of Cloud Forms] p. 1161-1166. Compendium of Meteorology. 1951.
5. 成田月昶:「宗谷管内における局地的な大雨」(研究時報 8巻9号) 1956.
6. 成田月昶:「宗谷管内の結霜と稚内の最低気温について」北部気象研究会誌 第4号 1947.
7. 成田月昶:「稚内の曇と降雨について」北部気象研究会誌 第4号 1947.

## 〔雲鏡〕 学会機関誌に権威を

日本気象学会の機関誌に権威があるのだろうか? 最近の機関誌をみて疑問に思ったので、一文を草してみた。

機関誌に掲載する論文は、原則として、学会の例会あるいは大会で講演し、討論を経たものであることは言うまでもない。この過程を辿らなければならないという目的は、討論によって研究内容の欠陥が是正され、より整った形にすることによって、機関誌の権威を維持するということであると考えられる。所が、発表された論文をみると、討論された点についての考察が少しも加えられずに機関誌に掲載されているのがよく見られる。それが、小欠陥ならともかく、前提となる仮設そのものがおかしかったり、演繹してゆく途中の解析に大きな飛躍があって、それが討論の問題点となった場合でさえも、全く顧

慮された様子がみえないのはどうしたことか。

以上の点に関しては、もちろん投稿者自身に問題があるが、編集部にも問題があるのではないだろうか。現象を考察する場合に、みる立場によって違った把握の仕方が起りうるので、そのような討論は、投稿者よりも編集部が討論として取上げるべきと思うが、学会で指摘された重大な間違いあるいは現象把握の粗雑さについては、編集部で十分検討し、整備して後に掲載すべきではないだろうか。もし、それが不可能ならば、学会で発表した際の討論者に、その論文に対する Comment を書いてもらって、はっきりと学会としての立場を明確にする必要があるのではないだろうか。殊に、気象集誌は、欧文論文を集めており、外国で容易に読まれる故、「天気」以上にこのようなことに対する注意が肝要であると思われる。

(奥田 穰)